

かのや男女共同参画社会づくりフォーラム



報告

12/4日の「かのや男女共同参画社会づくりフォーラム」は、地域づくりをテーマとして、講師にたもつゆかり氏と3名のパネリストをお迎えし開催されました。



「フォーラムの様子」

たもつ ゆかり氏の講演は、「ひとり一人が大切にされる共生社会をめざして」と題し、性別に関わりなく、職場、家庭、地域の男女の役割分担意識の解消、ひとり一人が大切にされる多様な選択ができる地域づくりなど男女共同参画社会づくりについて話をされました。

パネルディスカッションでは、地域づくりに活躍されている3名の方々にパネリストになっていただいて話を伺いました。若い人たちが鹿屋の町づくりに取り組む努力をしている姿や町内会長、障がい者の自立支援など地域づくりに奔走されている方々に対し、感心したり、力をもらったりしたとの感想をいただきました。

参加者からは、このようなフォーラムをもっと若い人や多くの参加者に聞かせたいとのアンケートもいただき、大変うれしく思いました。また、このフォーラムを企画、広報等していただいた実行委員の皆さんへの労をねぎらう言葉もありました。このフォーラムに関係していただいた皆様、アンケートへの御協力をいただいた皆様、フォーラムに参加頂きました皆様本当にありがとうございました。



「地域づくり」は、鹿屋市の「かのや男女共同参画プラン」の基本目標にも掲げています。

男女共同参画による活力ある地域づくりの推進として

協働による地域づくりを推進するため、活動支援や人材育成の取組みを行っています。

講演紹介

「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」

北海道大学法学部教授 宮本太郎氏の講演内容を一部掲載しました。

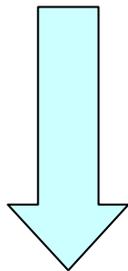
○男女共同参画を高く、大きな観点から位置付けなければならない。

経済成長戦略の一環としての男女共同参画や、老若男女の国民すべてが出番と居場所を見つることができる社会づくりのその根幹として位置づけるべき。

○日本における男女共同参画づくりは、なぜ必要か。

これまで雇用を軸にした生活保障というのが成り立ってきた。それは、すべての人に同じように安定した雇用が保障されておらず、男性稼ぎ主に行われてきた。

しかし、男性稼ぎ主に限定されていたということも相まって、幾つか問題点があった。①官僚制行政が業界や会社を支え、保護する。②会社が男性稼ぎ主の雇用を保障する。③男性稼ぎ主が妻・子どもを養う。といったこれまでの日本の生活保障の構造である。社会を安定させてきたという点では良い面もあったがこの社会の仕組で女性は、男性を通して会社や業界に依存し、そして会社や業界を通して官僚制行政にさらに依存した。



しかし、1995年以降、この構造が崩れ、非正規化から貧困化が進んだ。男性稼ぎ主の収入を補完するため、女性が働きに出るようになり、非正規化が進み、これまで、補完する役割だったような労働条件、賃金水準で、家計の主たる稼ぎ主にならなければならなくなり、貧困化が進んだ。

1999年、男女共同参画社会基本法が成立し、法的・制度的に男女共同参画が目覚しく進展した年であった。一方で、労働者派遣法の改正があり、非正規化と格差拡大を象徴した年でもあった。男女共同参画は、格差の拡大や貧困化と並行して進んだといえる。実際に、男女格差に加え、女女格差、高齢者と若者の間の格差が拡大した。



このため、経済活力を生み出すための戦略の一環として、また、老若男女、すべての国民が出番と居場所を確保できる社会づくりの一環として、男女共同参画を、きちんと位置付ける必要性が高まっている。

○老若男女の参加を促進する4つの橋

教育終了後 男性＝定年まで勤務 女性＝家庭に入る 失業すると大きな打撃をこうむる。このような一方通行型の社会、人生に対し→①生涯教育や高等教育②介護や保育のサービス③公的な職業訓練④高齢者雇用のための支援政策や体や心が弱った人を雇用に結びつけるためのさまざまなサービスなど。この4つの橋を架けるということが、今、日本社会の中で求められており、そして、男女共同参画をこの4つの橋の中の一環として位置付けることが重要である。





ある夫婦の出来事

この夫婦の会話を読んで皆さんは、どのように思われますか。

ある日、夫を送り出してから妻は高い熱を出し寝込んでしまいました。夫が仕事から帰ると、妻はふとんをかぶって寝ているのですから、夫は大変心配して、大丈夫なの？薬は飲んだの？熱はどのくらいあるの？病院に行ったほうがいいよ。とものすごく労わり、そして「いいよ、夕飯は。僕の夕飯なら心配しなくて。外で食べて帰ってくるから。」そう言って夫は出かけるのですが、その夫の後ろ姿を見て、妻は何て冷たい人だろう。とぽろぽろ涙を流しました。

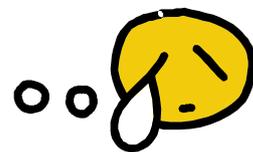
この話は、中央大学の広岡教授が講演で話される男女共同参画に関するエッセンスだそうです。

この話を讀まれて皆さんは、「どこかで聞いたことがある。」とか「我が家でも経験がある。」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

高熱で食事の支度もできないで寝込んでいる妻の食事はどうなるのか?????
(夫に気付いて欲しい.....)



かなしい



《 問合せ先 》

〒893-8501 鹿屋市共栄町20番1号

TEL：(0994) 31-1147

FAX：(0994) 40-3003

市民活動推進課（男女共同参画推進室）

〈メールアドレス〉

danjyo@e-kanoya.net